

米をめぐる関係資料

令和 4 年 1 0 月

農林水産省

目次

【① 我が国における米の状況】

○我が国におけるコメ	4
○コメの全体需給の動向（昭和35年～）	5
○米の需要量及び販売価格の動向	6
○米の用途別・年産別面積の推移	7
○令和3年産の水田における作付状況	8
○米の流通経路別流通量の状況	9
○米の流通の状況	10
○家庭における1世帯当たりの米、 パン、めん類の購入量の推移	11
○家庭における1世帯当たりの支出金額の推移	12
○米の消費における家庭内及び 中食・外食の占める割合	13
○米の消費動向	14
○主食用米の販売動向	17
○（参考）茶わん1杯のお米の値段	18
○販売目的で作付けした水稻の 作付面積規模別農業経営体数	19
○米の作付規模別60kg当たり生産費	20
○水田の利用状況の推移	21
○政府備蓄米の運営について	22
○政府備蓄米の無償交付（子ども食堂等、 子ども宅食への支援）	23
○東日本大震災を踏まえての災害時に対応した備蓄	24
○福島県における県産米の安全・安心確保への取組	25
○令和4年産米の作付制限等の対象地域	26

【② 米の需給安定・経営安定のための施策】

○食料・農業・農村基本計画：本文	28
○食料・農業・農村基本計画：令和12年度における 食料消費の見通し及び生産努力目標	29

【③ 需要に応じた生産の推進に向けた施策等】

○水田活用の直接支払交付金	31
○水田活用の直接支払交付金の 交付対象水田の見直しについて	32
○令和4年産米の需要に応じた生産・販売の推進状況	33
○交付対象水田に係る課題の把握・検証について	34
○水田活用の直接支払交付金に係る現場の課題・影響 （最終取りまとめ）	35
○水田農業の高収益化の推進	40
○麦・大豆収益性・生産性向上プロジェクト	41
○小麦、大豆等の需要の拡大状況	42
○新市場開拓に向けた水田リノベーション事業	44
○収入保険制度の実施	45
○米・畑作物の収入減少影響緩和交付金（ナラシ対策）	46
○水田活用の直接支払交付金、ナラシ・収入保険の 支払いまでの未収益期間に対する融資の拡充	49
○米穀周年供給・需要拡大支援事業	50
○コロナ影響緩和特別対策	51
○令和2年産米・3年産米の保管料等支援のイメージ	52
○主食用米の需給安定の考え方について	53
○（参考）米穀周年供給・需要拡大支援事業における これまでの主な取組事例	54
○農業再生協議会について	55
○需要に応じた生産の推進に係る全国会議等	56
○全国的な推進組織について	57
○需要に応じた販売について	58
○中食・外食向け販売量の状況について	59
○中食・外食向けの需要に応じた生産・販売事例	61
○「米と健康」に着目した情報発信について	62

目次

○米の消費拡大情報サイト	
「やっぱりごはんでしょ！」	63
○米の消費拡大運動「ご炊こうチャレンジ」への	
農林水産省の参加について	64
○吉本興業と農林水産省のタイアップ	65
○米消費促進企画「#MK3（マジでコメ食う3秒前）」	
への農林水産省の協力について	66
○産地と中食・外食事業者等の	
米マッチングフェアについて	67
○中食・外食向け米の多収品種	68
○生産コスト低減に向けた具体的な取組	69
○スマート農業産地モデル実証	70
○農産物検査の見直しについて	72
○スマート・オコメ・チェーンコンソーシアムについて	74
○生産から消費に至るまでの情報の連携と活用のイメージ	75
○スマート・オコメ・チェーンコンソーシアム会員一覧	76
○米（玄米・精米）の物流合理化について	77

【④ 新規需要米の取組状況】

○多収品種について	79
○飼料用米の取組状況	80
○令和3年産飼料用米の出荷方式、品種別面積	81
○飼料用米の供給状況	82
○配合飼料メーカーの立地状況と	
飼料用米の集荷・流通体制	83
○（参考）飼料用米の流通経費について	84
○米粉用米の状況	85
○米粉によるグルテンフリー食品市場の	
取り込みに向けて	86

○日本酒の需要動向と原料米の使用量について	87
○酒造好適米の需要に応じた生産について	88

【⑤ コメの輸出・輸入】

○コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況	90
○商業用のコメの輸出数量及び輸出金額の推移	91
○パックご飯・米粉及び米粉の輸出実績の推移	92
○輸出拡大実行戦略品目別輸出目標	93
○全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会の概要	94
○品目団体による輸出促進のための取組について	95
○コメ海外市場拡大戦略プロジェクトについて	96
○中国向けコメ輸出の状況	97
○海外における実需者の事例	98
○経営規模・生産コスト等の内外比較	99
○日米の水稻栽培法の主な違い	100
○コメの内外価格差	101
○コメの輸入制度	102
○MA米の運用に関する政府の方針・見解	103
○国家貿易によるコメの輸入の仕組み	104
○MA米の輸入状況	105
○令和3年度のSBS米の輸入入札状況	106
○MA米の販売状況	107
○コメの国家貿易（MA米等）の運用に伴う財政負担	108
○MA米をめぐる国際関係	109
○TPP11におけるコメの豪州枠の運用	110
○総合的なTPP等関連政策大綱	111
○総合的なTPP等関連政策大綱に基づく	
備蓄米の運営の見直し	113
○日EU・EPA交渉結果	114
○日米貿易協定交渉結果	115
○世界のコメ需給の現状	116
○コメ輸出国の動向	117

① 我が国におけるコメの状況

我が国におけるコメ

○ コメの国内生産（稲作と水田）は、我が国の食料安全保障、食生活、農業・農村、国土・環境などに不可欠のもの。日本人の歴史・文化とも密接な関係。

○ 我が国の食料自給率（令和3年度）

	カロリーベース	生産額ベース
令和2年度	37%	67%
	↓	↓
令和3年度	38%	63%

（参考）品目別供給熱量自給率

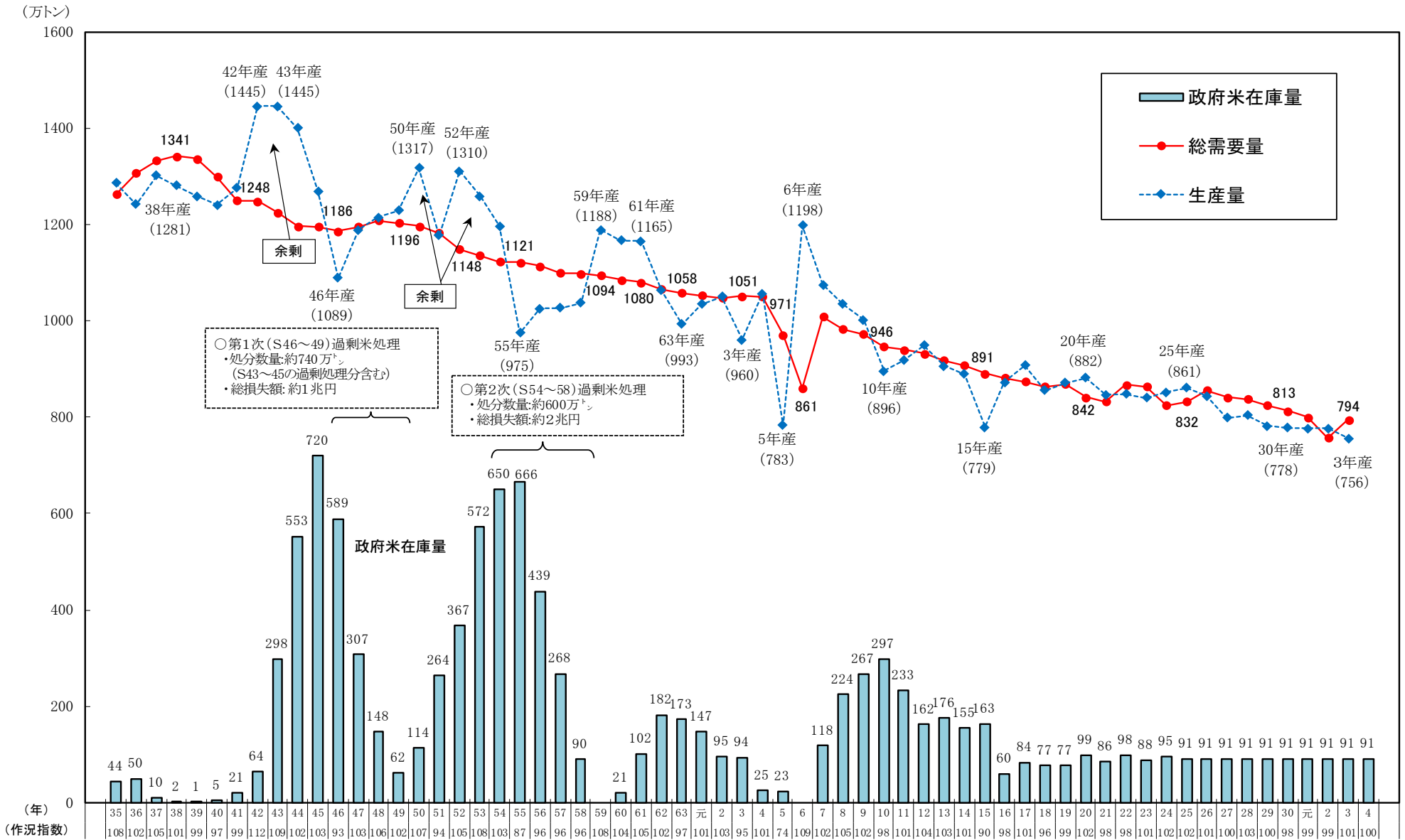
コメ	小麦	大豆	野菜	果実
98%	17%	26%	75%	30%
畜産物	砂糖類	油脂類	魚介類	その他
16%	36%	3%	53%	22%

・農産物市場の開放と食料の輸入依存が進む中で、コメは100%近い自給率を維持。
・コメは、先進国の中で最低レベルである我が国の食料自給率を支える、食料安全保障の要。

○ 我が国におけるコメの重要性

- ・ 国民の主食であり、食文化の基礎
〔国産米は品質も高く、日本人の嗜好に最適。ご飯、おむすび、寿司などの他、もち、和菓子（例. 団子、白玉）、米菓（例. せんべい、あられ）、日本酒などの原材料。祝事や年中行事には赤飯、鏡餅、柏餅など。〕
- ・ 農業生産・農村経済の中核
〔農業生産額の約2割がコメ(R2)。全耕作地の半分以上が田(R3)。全農業経営体の6割が稲作(R3)。〕
- ・ 稲作や水田の有する多面的機能
〔国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承など、農村で農業生産活動が行われることにより生ずる、食料などの供給の機能以外の多面にわたる機能のこと（食料・農業・農村基本法第3条）。〕
- ・ 日本人の歴史や文化と密接な関係
〔稲作の始まりにより社会（ムラ）・国家（クニ）が成立。江戸時代の各藩はコメの生産量で表され（石高制）、税もコメ（年貢）。豊作への感謝と祈りが、祭りの起源。稲作での共同作業は、日本の組織文化の基礎。〕

コメの全体需給の動向(昭和35年～)



注1. 政府米在庫量は、外国産米を除いた数量である。

2. 政府米在庫量は、各年10月末現在である。ただし、平成15年以降は各年6月末現在である。

3. 平成12年10月末の政府米在庫量は、「平成12年緊急総合米対策」による援助用隔離等を除いた数量である。

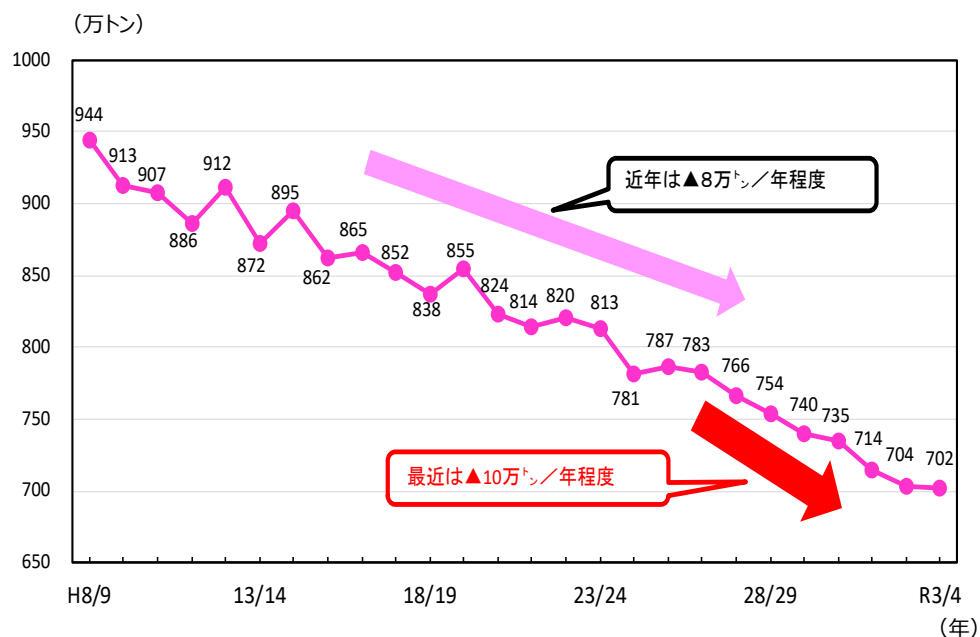
4. 総需要量は、「食料需給表」(4月～3月)における国内消費仕向量(陸稲を含み、主食用(米・米穀粉を含む)のほか、飼料用、加工用等の数量)である。ただし、平成5年以降は国内消費仕向量のうち国産米のみの数量である。

5. 生産量は、「作物統計」における水稲と陸稲の収穫量の合計である。

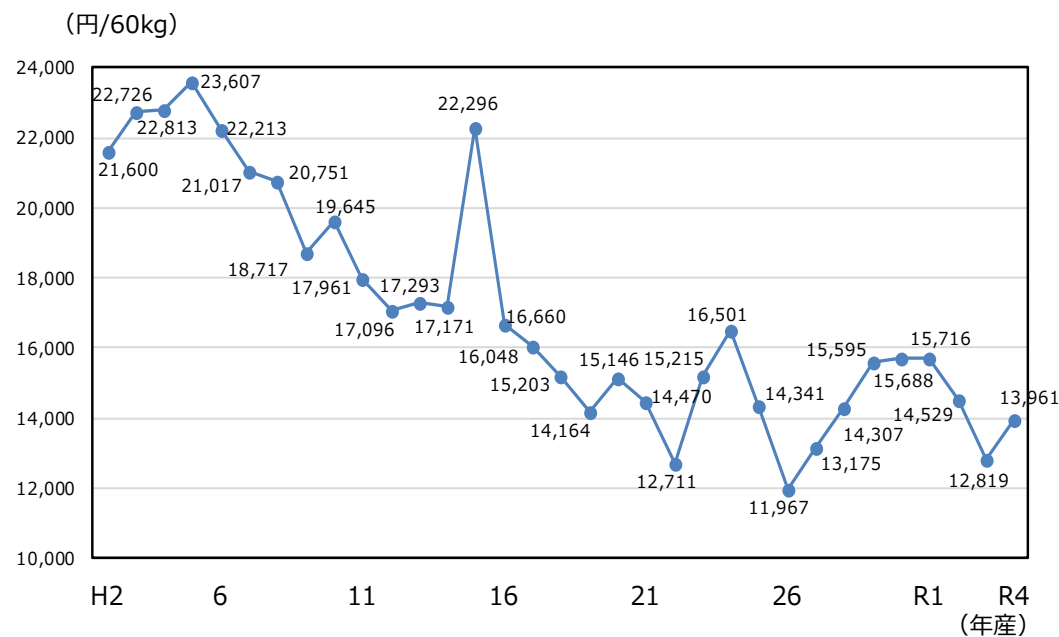
米の需要量及び販売価格の動向

- 主食用米の全国ベースの需要量は一貫して減少傾向にある。最近では人口減少等を背景に年10万トン程度に減少幅が拡大。
- 米の販売価格は長期的に低下傾向で推移。近年は堅調に推移していたが、令和2年産米、令和3年産米の平均は、前年を下回って推移。

【主食用米の需要量の推移】



【米の販売価格の推移】



資料：(財) 全国米穀取引・価格形成センター入札結果、農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：平成2～17年産までは(財) 全国米穀取引・価格形成センター入札結果を元に作成。

注2：平成18年産以降は出回り～翌年10月まで(令和3年産は出回り～4年9月まで、令和4年産は4年9月)の相対取引価格の平均値(令和3年産、令和4年産は速報値)。

注3：センター価格は、銘柄ごとの落札数量で加重平均した価格であり、相対取引価格は、銘柄ごとの前年産検査数量で加重平均した価格である。

米の用途別・年産別面積の推移

(単位: 万ha)

用途 年産			備蓄米	加工用米	新規 需要米						
	主食用米	生産量 (万トン)				飼料用	WCS 〔 稲発酵 粗飼料稲 〕	米粉用	新市場 開拓用 (輸出用米等)	酒造用	その他
H20	159.6	866	H22年産 までは、 主食用米 として生産	2.7	1.2	0.1	0.9	0.0	0.0	—	0.2
H21	159.2	831		2.6	1.8	0.4	1.0	0.2	0.0	—	0.1
H22	158.0	824		3.9	3.7	1.5	1.6	0.5	0.0	—	0.1
H23	152.6	813	1.2	2.8	6.6	3.4	2.3	0.7	0.0	—	0.1
H24	152.4	821	1.5	3.3	6.8	3.5	2.6	0.6	0.0	—	0.1
H25	152.2	818	3.3	3.8	5.4	2.2	2.7	0.4	0.1	—	0.1
H26	147.4	788	4.5	4.9	7.1	3.4	3.1	0.3	0.1	0.1	0.1
H27	140.6	744	4.5	4.7	12.5	8.0	3.8	0.4	0.2	0.1	0.0
H28	138.1	750	4.0	5.1	13.9	9.1	4.1	0.3	0.1	0.1	0.0
H29	137.0	731	3.5	5.2	14.3	9.2	4.3	0.5	0.1	0.1	0.0
H30	138.6	733	2.2	5.1	13.1	8.0	4.3	0.5	0.4	—	0.0
R元	137.9	726	3.3	4.7	12.4	7.3	4.2	0.5	0.4	—	0.0
R2	136.6	723	3.7	4.5	12.6	7.1	4.3	0.6	0.6	—	0.0
R3	130.3	701	3.6	4.8	17.5	11.6	4.4	0.8	0.7	—	0.0
R4	125.1	670	3.6	5.0	20.8	14.2	4.8	0.8	0.7	—	0.0

注1 主食用米: 統計部公表値で、生産量は9月25日時点の予想収穫量。

備蓄米: 地域農業再生協議会が把握した面積。加工用米及び新規需要米: 取組計画認定面積。

注2 新規需要米の「酒造用」については、「需要に応じた生産・販売の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米であり、平成30年産以降は取りまとめていない。

注3 ラウンドの関係で、新規需要米の合計と内訳は合わない場合がある。

令和4年産の水田における作付状況（令和4年9月15日時点）

- ・ 全国の主食用米の作付面積については、前年実績（130.3万ha）から5.2万ha減少（▲4.0%）し、125.1万haとなった。
- ・ また、戦略作物等については、加工用米、飼料用米、WCS用稲、麦、大豆で前年より増加した。

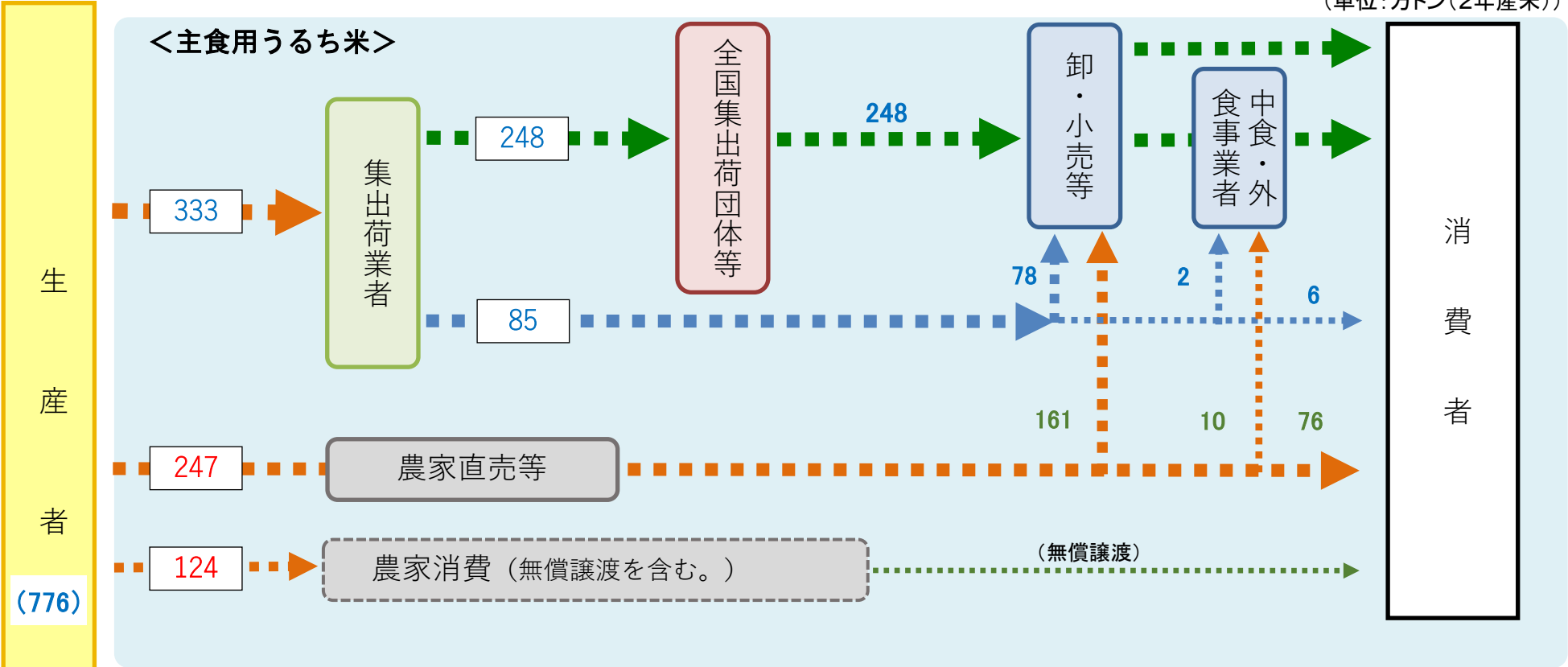
【主食用米及び戦略作物等の作付状況】

	主食用米	戦略作物等									(万ha)
		加工用米	新規需要米				麦	大豆	その他	戦略作物等 合計面積	備蓄米
			飼料用米	WCS 〔 稲発酵 粗飼料稲〕	米粉用米	新市場 開拓用米 （輸出用米等）					
H28年産	138.1	5.1	9.1	4.1	0.3	0.1	9.9	8.9	10.2	47.7	4.0
H29年産	137.0	5.2	9.2	4.3	0.5	0.1	9.8	9.0	10.2	48.3	3.5
H30年産	138.6	5.1	8.0	4.3	0.5	0.4	9.7	8.8	10.2	47.0	2.2
R元年産	137.9	4.7	7.3	4.2	0.5	0.4	9.7	8.6	10.2	45.6	3.3
R2年産	136.6	4.5	7.1	4.3	0.6	0.6	9.8	8.5	10.2	45.6	3.7
R3年産	130.3	4.8	11.6	4.4	0.8	0.7	10.2	8.5	10.2	51.2	3.6
R4年産	125.1	5.0	14.2	4.8	0.8	0.7	10.6	8.9	9.9	54.9	3.6

注1：加工用米及び新規需要米（米粉用米、飼料用米、WCS、新市場開拓用米）は取組計画の認定面積。
注2：備蓄米は、地域農業再生協議会が把握した面積。
注3：麦、大豆、その他（飼料作物、そば、なたね）は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

米の流通経路別流通量の状況

(単位: 万トン(2年産米))



資料：農林水産省「作物統計」、「生産者の米穀在庫等調査」、「農林業センサス」、「米穀の取引に関する報告」及び全国出荷団体調べ等を基に推計。

注1：集出荷業者には、全集連系を含む（JA等への出荷量333万トンのうち22万トンが全集連系）。

注2：「卸・小売等」には、加工事業者等を含む。

注3：ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

(参考) 入手経路別の購入割合 (複数回答)

	対前年比
スーパーマーケット	49.8% (▲0.3%)
その他の小売店	21.9% (+2.0%)
産地直売所	1.1% (+0.1%)
インターネット	9.7% (+1.6%)
生産者から直接購入	5.0% (▲0.9%)
無償譲渡	15.2% (▲2.6%)

※ 米穀安定供給確保支援機構調べを元に農林水産省で算出 (令和2年4月から令和3年3月の年平均)

米の流通の状況（平成16～令和2年産米）

【生産段階】

(単位: 万トン)

年産	生産量		出荷・販売		農家消費等		その他		加工用米等		もち米		減耗	
H 16	872	100.0%	636	72.9%	180	20.6%	56	6.4%	12	1.4%	27	3.1%	17	1.9%
17	906	100.0%	653	72.1%	183	20.2%	62	6.8%	13	1.4%	31	3.4%	18	2.0%
18	855	100.0%	631	73.8%	165	19.3%	59	6.9%	15	1.8%	27	3.2%	17	2.0%
19	871	100.0%	632	72.6%	174	20.0%	65	7.5%	17	2.0%	31	3.6%	17	2.0%
20	882	100.0%	636	72.1%	172	19.5%	64	7.3%	16	1.8%	30	3.4%	18	2.0%
21	847	100.0%	624	73.7%	161	19.0%	62	7.3%	16	1.9%	29	3.4%	17	2.0%
22	848	100.0%	594	70.0%	174	20.5%	71	8.3%	22	2.6%	32	3.8%	17	2.0%
23	840	100.0%	604	71.9%	170	20.2%	66	7.9%	16	2.0%	33	3.9%	17	2.0%
24	852	100.0%	616	72.3%	167	19.5%	69	8.1%	19	2.2%	33	3.9%	17	2.0%
25	860	100.0%	626	72.8%	165	19.2%	69	8.0%	21	2.4%	31	3.6%	17	2.0%
26	844	100.0%	616	73.1%	154	18.3%	73	8.7%	27	3.2%	30	3.5%	17	2.0%
27	799	100.0%	579	72.5%	146	18.3%	74	9.2%	25	3.1%	33	4.1%	16	2.0%
28	804	100.0%	582	72.3%	146	18.1%	77	9.6%	26	3.2%	35	4.4%	16	2.0%
29	782	100.0%	569	72.8%	139	17.7%	74	9.5%	26	3.3%	33	4.2%	16	2.0%
30	778	100.0%	576	74.0%	130	16.7%	73	9.3%	28	3.6%	29	3.7%	16	2.0%
R 元	776	100.0%	577	74.3%	129	16.6%	70	9.1%	27	3.4%	28	3.7%	16	2.0%
2	776	100.0%	580	74.7%	124	16.0%	72	9.3%	28	3.5%	29	3.8%	16	2.0%

【出荷・販売段階】

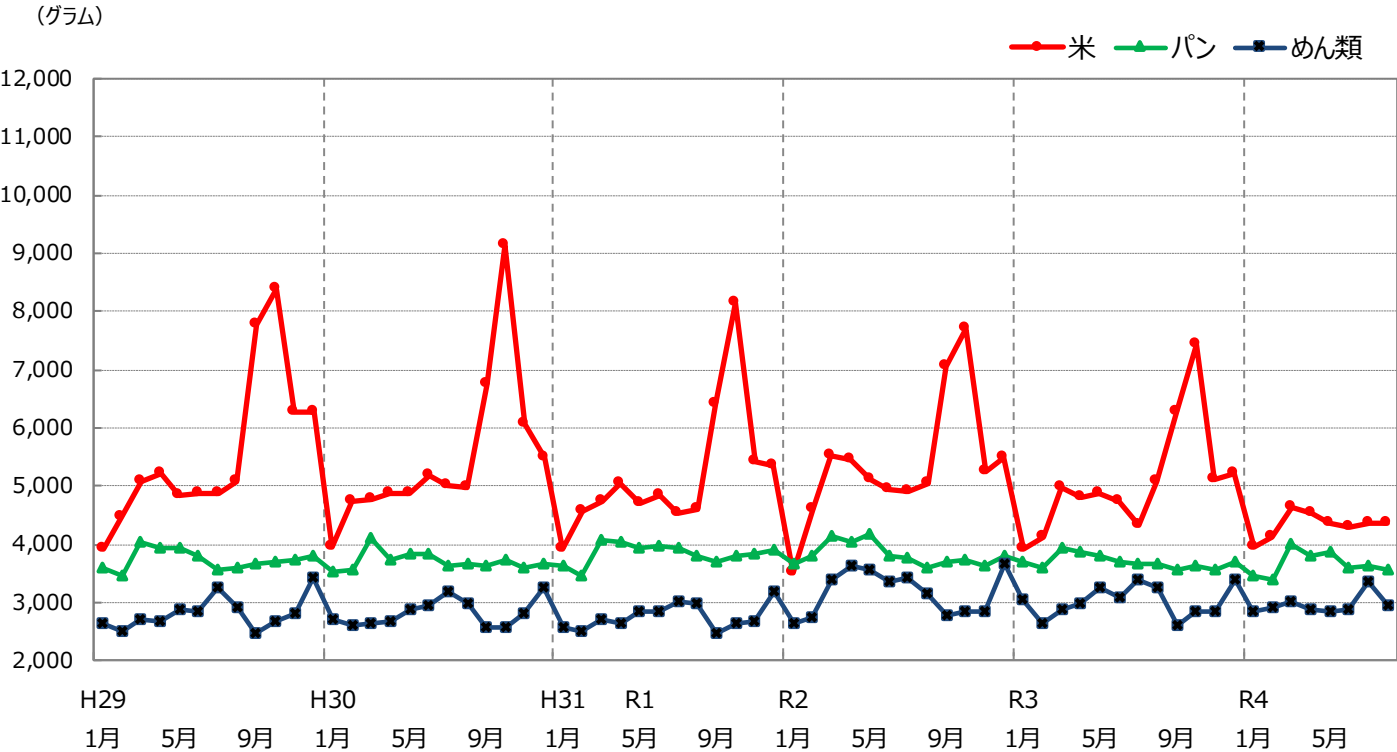
(単位: 万トン)

年産	出荷・販売		農協		販売委託		直販		全集連系業者		販売委託		直販		生産者 直接販売等	
H 16	636	72.9%	390	44.7%	350	40.1%	40	4.6%	20	2.3%	7	0.8%	12	1.4%	226	25.9%
17	653	72.1%	405	44.7%	352	38.9%	53	5.8%	22	2.4%	8	0.9%	13	1.4%	226	24.9%
18	631	73.8%	384	44.9%	320	37.4%	64	7.5%	21	2.5%	9	1.1%	13	1.5%	227	26.5%
19	632	72.6%	378	43.4%	308	35.4%	70	8.0%	21	2.4%	9	1.0%	13	1.5%	232	26.6%
20	636	72.1%	390	44.2%	303	34.4%	87	9.9%	21	2.4%	8	0.9%	14	1.6%	224	25.4%
21	624	73.7%	372	43.9%	294	34.7%	78	9.2%	22	2.6%	7	0.8%	15	1.8%	230	27.2%
22	594	70.0%	369	43.5%	285	33.6%	84	9.9%	21	2.5%	6	0.7%	15	1.8%	203	24.0%
23	604	71.9%	351	41.8%	266	31.7%	85	10.1%	21	2.5%	6	0.8%	15	1.8%	232	27.6%
24	616	72.3%	352	41.3%	273	32.1%	79	9.3%	21	2.4%	6	0.7%	15	1.8%	243	28.6%
25	626	72.8%	373	43.4%	293	34.0%	81	9.4%	22	2.6%	7	0.8%	15	1.8%	231	26.8%
26	616	73.1%	369	43.7%	285	33.8%	84	10.0%	24	2.8%	9	1.0%	15	1.8%	223	26.5%
27	579	72.5%	344	43.1%	258	32.3%	86	10.7%	22	2.7%	7	0.9%	14	1.8%	213	26.7%
28	582	72.3%	338	42.1%	252	31.3%	86	10.8%	22	2.7%	6	0.8%	16	1.9%	221	27.5%
29	569	72.8%	315	40.3%	234	29.9%	81	10.4%	20	2.6%	5	0.7%	15	1.9%	234	29.9%
30	576	74.0%	298	38.4%	219	28.1%	80	10.2%	19	2.4%	5	0.6%	13	1.7%	259	33.3%
R 元	577	74.3%	308	39.7%	231	29.7%	77	10.0%	21	2.7%	6	0.8%	14	1.9%	247	31.9%
2	580	74.7%	312	40.1%	241	31.1%	70	9.1%	22	2.8%	6	0.8%	15	1.9%	247	31.8%

資料：農林水産省「作物統計」、「生産者の米穀現在高等調査」（22年産以降は「生産者の米穀在庫等調査」）、「農林業センサス」、「米穀の取引に関する報告」及び全国出荷団体調べ等を基に推計。

- 注：1）平成21年産までの推計に用いた「生産者の米穀現在高等調査」と22年産以降の推計に用いている「生産者の米穀在庫高等調査」では調査対象農家の定義が異なる（前者は10a以上稲を作付（子実用）している農家、後者は販売目的の水稻の作付面積が10a以上の販売農家が対象）ことから、22年産から推計手法を変更している。
- 2）生産段階には、このほか、①集荷円滑化対策による区分出荷米（17年産8万トン、20年産米10万トン）、②品質低下に伴う歩留り減（22年産米10万トン）がある。
- 3）ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

家庭における1世帯当たりの米、パン、めん類の購入量の推移



(グラム)

		年間					月間							
		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
米	購入数量	67,270	65,750	62,200	64,530	60,800	3,950	4,140	4,650	4,540	4,380	4,280	4,350	4,350
	前年比	97.9%	97.7%	94.6%	103.7%	94.2%	100.8%	100.5%	93.2%	94.4%	89.8%	90.5%	100.7%	85.5%
パン	購入数量	44,840	44,526	46,011	45,857	44,345	3,478	3,409	4,005	3,794	3,880	3,615	3,635	3,568
	前年比	99.4%	99.3%	103.3%	99.7%	96.7%	93.9%	95.0%	101.3%	97.7%	102.4%	97.8%	99.5%	97.3%
めん類	購入数量	33,934	33,867	33,169	38,021	36,208	2,851	2,924	3,012	2,871	2,860	2,889	3,375	2,967
	前年比	99.2%	99.8%	97.9%	114.6%	95.2%	93.5%	111.1%	104.0%	95.8%	88.2%	93.9%	99.7%	91.3%

資料：総務省「家計調査」家計収支編
(注1) 二人以上の世帯の数値である。
(注2) 平成29年から令和3年については年間の購入数量・対前年比、令和4年は月間の購入数量・対前年同月比である。
(注3) 米は精米ベースである。

家庭における1世帯当たりの支出金額の推移

(円、%)

	食料		米		パン		めん類		スパゲッティ(パスタ)		カップめん		菓子類		調理食品		外食		ハンバーガー	
										前年 (同月)比										前年 (同月)比
		前年 (同月)比		前年 (同月)比		前年 (同月)比		前年 (同月)比				前年 (同月)比		前年 (同月)比						
平成29年	946,438	▲0.1	23,681	+0.7	29,957	▲1.1	17,300	▲1.7	1,146	▲4.7	4,077	+0.4	83,087	▲0.5	120,000	+1.4	168,646	+0.3	3,748	+4.6
30年	952,170	+0.6	24,314	+2.7	30,554	+2.0	17,368	+0.4	1,166	+1.7	4,282	+5.0	83,916	+1.0	122,930	+2.4	171,571	+1.7	4,099	+9.4
令和元年	965,536	+1.4	23,212	▲4.5	32,164	+5.3	17,713	+2.0	1,170	+0.3	4,727	+10.4	87,469	+4.2	128,386	+4.4	176,917	+3.1	4,576	+11.6
2年	962,373	▲0.3	23,920	+3.1	31,456	▲2.2	20,602	+16.3	1,476	+26.2	5,250	+11.1	85,534	▲2.2	132,494	+3.2	120,921	▲31.7	5,100	+11.5
3年	952,812	▲1.0	21,862	▲8.6	31,353	▲0.3	19,676	▲4.5	1,289	▲12.7	5,400	+2.9	88,195	+3.1	139,876	+5.6	115,296	▲4.7	5,526	+8.4
令和4年1月	75,974	+2.3	1,389	▲6.3	2,535	▲0.4	1,535	▲1.3	105	▲7.1	475	+3.7	7,189	+6.0	11,372	+2.9	10,590	+31.9	472	▲2.9
2月	71,655	▲0.9	1,424	▲7.9	2,594	+2.3	1,535	+7.6	111	+4.7	497	+14.3	7,347	+1.1	11,103	+4.3	7,286	▲8.8	441	+12.2
3月	79,982	+0.8	1,589	▲13.4	2,874	+3.2	1,594	+4.0	131	+10.1	489	+2.5	8,311	+3.2	11,743	+4.9	10,709	+1.3	484	+5.9
4月	77,014	+1.8	1,618	▲10.2	2,814	+0.8	1,594	▲0.4	115	▲4.2	441	+0.2	7,266	+6.1	11,206	+2.8	10,859	+20.7	457	+9.3
5月	82,066	+3.6	1,473	▲19.9	2,817	+2.2	1,665	▲4.3	111	▲5.9	429	▲1.6	7,794	+7.7	11,569	+3.4	12,448	+45.6	455	▲8.6
6月	78,160	+2.7	1,505	▲13.4	2,661	+3.7	1,664	▲5.2	104	+6.1	342	▲9.5	7,261	+8.1	10,918	+0.8	11,045	+37.2	388	▲4.2
7月	82,750	+3.0	1,500	▲8.1	2,680	+4.1	1,909	+1.1	112	+16.7	391	+2.6	7,776	+6.3	12,431	+1.3	11,993	+18.5	488	+3.6
8月	85,949	+5.6	1,531	▲14.4	2,670	+5.0	1,830	+2.6	112	+3.7	445	▲0.4	8,446	+11.4	12,565	+3.9	13,185	+39.6	547	+0.6

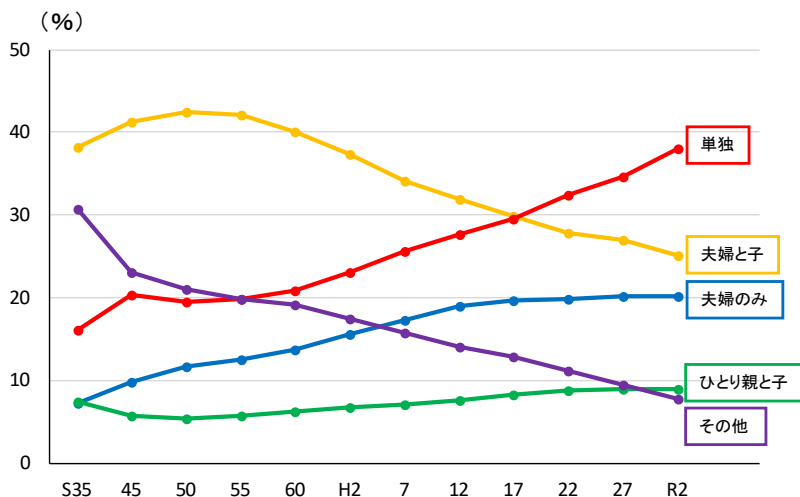
資料:総務省「家計調査」

(注1) 二人以上の世帯の数値である。
(注2)平成29年から令和3年については年間の支出金額・対前年比、令和4年は月間の支出金額・対前年同月比である。
(注3)パンは、食パン及び他のパン(菓子パン等)である。

米の消費における家庭内及び中食・外食の占める割合

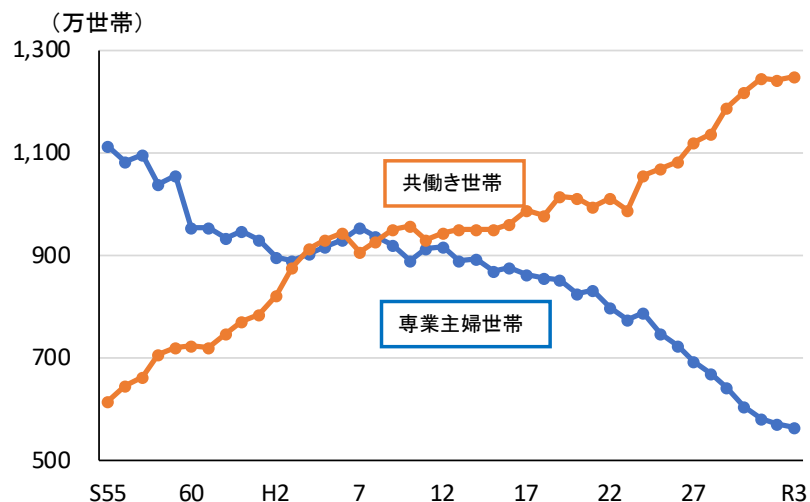
- 世帯構成の変化(単身世帯の増加)、女性の社会進出(共働き世帯の増加)等の社会構造の変化により、食の簡便化志向が強まっており、米を家庭で炊飯する割合が年々低下する一方で、中食・外食の占める割合は年々増加傾向にある。

【家族類型別にみた一般世帯の構成割合の推移】



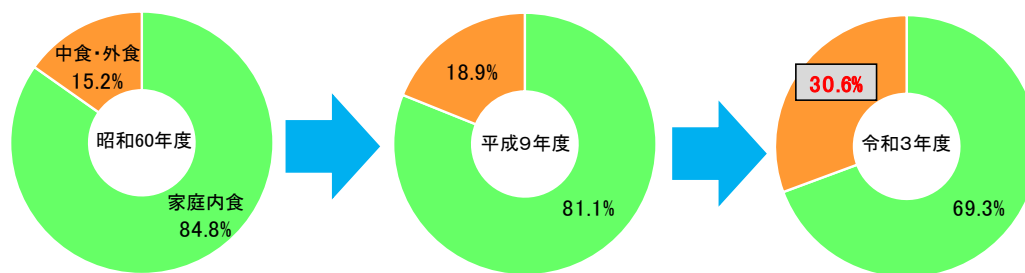
資料：総務省統計局「国勢調査報告」

【専業主婦世帯数と共働き世帯数の推移】



資料：独立行政法人労働政策研究・研修機構「専業主婦世帯と共働き世帯」

【米の消費における家庭内及び中食・外食の占める割合（全国）】



資料：農林水産省「米の1人1ヶ月当たり消費量」及び米穀機構「米の消費動向調査」